embryogeny in *Ammobium alatum*. Austr J. Bot. **10**: 65-75. ——— 1966. Systematic embryology of angiosperms. John Wiley & Sons, Inc., New York. ——— 1968. The embryology of *Epaltes australis* (Compositae). Proc. Linn. Soc. N.S.W. **93**: 184-192. Deshande, P.K. 1962. Contribution to the embryology of *Caesulia axillaris*. J. Indian bot. Soc. **41**: 540-549. Maugini, E. 1962. Morfologi florale, embriologia ed embryogenesi in *Leontopodium alpinum* var. *typicum*. N.G. Bot. Ital. **69**: 1-18. Pullaiah, T. 1979. Studies in the embryology of Compositae IV. The tribe Inuleae. Amer. J. Bot. **66**: 1119-1127. ——— 1984. Embryology of Compositae. Today and Tomorrow, New Delhi. Tongiorgi, E. 1942. Il gametofito tetramegasporiale di *Helichrysum bracteatum*. N.G. Bot. Ital. **49**: 205-220.

* * * *

Filago arvensis L. の花粉形成，大胞子，胚嚢形成，胚乳形成，胚形成を調べた。葯室の壁の出来方は Dicotyledonous type である。タペタムは Periplasmoidal type である。花粉は3細胞期に放出される。4個の大胞子は1列またはT型に並ぶ。胚嚢形成は Polygonum type で，反足細胞は3細胞が1列に並び，胚乳形成の際にも多細胞にならない。胚乳形成は多核型である。胚形成は Asterad type である。

□小水内長太郎： **遠野市植物誌** 595 pp. 1987. 遠野市立博物館，岩手県．¥5,000（送料共）．編集は遠野市植物誌編集委員会としてあるが，509頁を占める植物関係の執筆は小水内氏の手に成り，同氏積年の研究の総まとめというべきものである。植物目録は約300頁で，産地が列記されている。他に遠野市植物調査史と明治以前本邦自然史追跡という項目にそれぞれ約50頁が当てられ，著者の蘊蓄が披瀝されている。標本の採集日時のデータがほしかったこと，地名のリストがあれば便利だったろうなどと欲張ったことを考えた。標本が利用できるように保存されることを切望する。（金井弘夫）

□Inoue, H. (ed.): **Studies on cryptogams in southern Peru** 192 pp. 1987. 東海大学出版会，東京．¥9,500. 国立科学博物館がおこなっている「南米における隠花植物の分化と分布に関する研究」（文部省海外学術調査：代表 井上 浩）の第二次調査が1684年にペルー南部でおこなわれたが，これはその成果の一部を取りまとめたもの。10篇の論文が掲載されている。蘚類ギボウシゴケ科の研究，苔類の油体，化学成分等に関する研究（4篇），地衣類カラタチゴケ属の研究，菌類の糞生菌，松葉分解菌などの研究（3篇）と，調査地域の植生に関する概要である。（神田啓史）